

計画資料

資料１ 地形及び地質

名古屋市の北東に位置する本市は、尾張丘陵と濃尾平野の接触地帯にあつて、その南側を庄内川が流れており、全般に東高西低の地盤傾斜をしていて、北東部の高地では海拔 436m、南西部の低地(勝川橋付近)では海拔 11m前後である。すなわち、東部の高丘陵地帯と南西部の平たん地帯とに分けられる。

地質構造は地形との関連が大きく、北東部山地の基盤は古生層と花崗岩類に分けられる。西に広がる丘陵は第 3 紀層で、亜炭をはさんだ泥岩層と砂礫層からなっているが、市の大部分は第 4 紀層で、丘陵南縁にたい積し南西に広がっている。

資料２ 河川

(1) 1 級河川

河川名	区 間		河 川 延 長 (km)	流 域 面 積 (km ²)
	上 流 端	下 流 端		
庄内川	左岸 恵那市三郷町野井字法仙寺 141 番の 1 地先 右岸 恵那市三郷町野井字川上 209 番地先	———	19.30	8.77
八田川	左岸 小牧市大字大草字大良 3400 番地先 右岸 小牧市大字大草字大良 3325 番地先	庄内川への合流点	8.88	9.51
大山川	狐洞川の合流点	新川への合流点	1.20	1.11
生地川	左岸 小牧市大字大草字角田 68 番地の 1 地先 右岸 下原町字平橋 2313 番の 35 地先	八田川への合流点	2.40	3.26
地蔵川	左岸 下市場町字山岸 1675 番の 1 地先 右岸 金ケ口町字山岸 1671 番の 1 地先	庄内川への合流点	9.52	15.29
新地蔵川	地蔵川からの分岐点	新川への合流点	1.80	7.79
内津川	内津町字南山 442 番の 2 地先の砂防堰堤下流端	庄内川への合流点	13.94	22.47
内津川 放水路	左岸 出川町字北の坪 1111 番の 22 地先 右岸 出川町字北の坪 1111 番の 29 地先	庄内川への合流点	1.80	1.84
大谷川	宮東川の方岐点	内津川への合流点	2.89	5.35
西行堂川	小牧市大字下末字山ノ田 970 番地先の入鹿用水路交点	大山川への合流点	3.70	3.84
繁田川	左岸 気噴町字川中 1552 番の 1 地先 右岸 気噴町字川西 1118 番の 1 地先	庄内川への合流点	0.70	1.87
新繁田川	山谷川の合流点	庄内川への合流点	1.95	3.17
うぐい川	柳川の合流点	庄内川への合流点	4.20	10.14
地蔵川 放水路	左岸 林島町 右岸 林島町	内津川への合流点	0.25	3.90

(注) 1 河川延長、流域面積は、春日井市内分である。

2 指定年月日は、いずれも昭和 44 年 3 月 20 日である。(内津川放水路、地蔵川放水路を除く)

(2) 準用河川

河川名	区 間		河川延長 (k m)	流域面積 (km ²)	指 定 年 月 日
	上 流 端	下 流 端			
牛山川	両岸 牛山町字八反田 2176 番の 6 地先	一級河川大山川への合流点	1.00	0.58	昭和 49 年 5 月 10 日
神屋川	左岸 神屋町字向畑 1024 番の 1 地先 右岸 神屋町字向畑 1020 番の 2 地先	一級河川内津川への合流点	1.30	1.41	
坂下川	左岸 坂下町 2 丁目 1086 番の 4 地先 右岸 坂下町 1 丁目 1606 番の 2 地先	一級河川内津川への合流点	0.70	0.52	昭和 50 年 3 月 14 日
如意申川	名鉄小牧線交差部	生棚川への合流点	1.00	2.73	
地蔵川	左岸 金ケ口町字金ケ口 1527 番の 4 地先 右岸 金ケ口町字金ケ口 1500 番の 1 地先 (金ケ口池)	一級河川地蔵川へ接続	0.54	1.29	昭和 51 年 11 月 18 日
大泉寺川	左岸 大泉寺町字大池下 292 の 230 地先 右岸 大泉寺町字大池下 255 の 1 地先	一級河川地蔵川への合流点	1.80	1.49	
大手川	左岸 牛山町字大手前 2969 番地先 右岸 牛山町字流 2945 番の 16 地先	一級河川西行堂川への合流点	0.90	0.61	昭和 53 年 4 月 8 日
池田川	左岸 田楽町字池之上 741 番の 1 地先 右岸 田楽町字池之上 741 番の 2 地先	一級河川西行堂川への合流点	0.90	0.53	昭和 55 年 11 月 26 日
北山川	左岸 桃山町 2 丁目 85 番地先 右岸 桃山町 2 丁目 81 番地先	与兵池	0.30	0.27	昭和 56 年 9 月 4 日
新繁田川	左岸 岩成台 4 丁目 15 番の 1 地先 右岸 岩成台 8 丁目 4 番の 1 地先	一級河川新繁田川の上流端	0.57	1.18	
黒助川	明知町字東厚金 932 番の 1 地先	黒助洞川への合流点	0.18	0.09	昭和 60 年 2 月 13 日

資料3 気候

(1) 気温、風速、降雨量等

年 月	気 温			風 速		降雨日数 日	降 雨 量 mm	日 最 大 降 雨 量	
	平 均	最 高	最 低	平 均	最 高			月 日	降 雨 量
	℃	℃	℃	m/s	m/s				mm
平成30年	17.3	40.9	-4.0	3.6	28.4	122	1,441.0	8月12日	73.0
令和元年	17.4	39.1	-2.3	3.5	18.4	112	1,378.5	10月25日	125.0
2	17.3	39.2	-2.2	3.5	17.6	106	1,607.0	10月10日	67.0
3	17.2	38.1	-2.7	3.5	17.2	106	1,886.0	8月13日	174.0
4	17.2	40.5	-2.7	3.4	16.5	109	1,464.5	7月9日	104.5
4 1月	4.1	14.9	-2.7	4.1	14.6	3	21.5	1月23日	11.5
2	4.5	15.8	-2.7	3.8	15.2	5	25.5	2月19日	11.5
3	11.1	23.2	0.5	3.9	15.0	6	70.5	3月18日	29.5
4	17.1	30.6	4.0	3.6	12.8	10	103.5	4月29日	28.0
5	20.0	35.1	8.3	3.3	12.3	10	127.5	5月27日	53.0
6	24.9	39.8	14.2	3.1	12.3	9	81.0	6月6日	29.0
7	28.2	40.5	21.8	3.1	10.3	16	387.5	7月9日	104.5
8	28.9	38.8	22.2	3.0	12.8	18	210.5	8月17日	51.5
9	26.5	36.6	18.1	3.6	16.5	16	276.5	9月23日	90.0
10	19.0	32.1	8.5	3.0	12.7	5	56.5	10月7日	24.5
11	14.9	24.4	7.4	3.0	12.9	7	83.5	11月29日	29.5
12	6.6	16.9	-2.4	3.6	15.9	4	20.5	12月24日	9.5

資料：春日井市統計書 令和5年版

(2) 警報・注意報発表状況

(単位 回)

年 月	警 報	大 雨 洪 水 暴 風 其 他				注意報	大 雨 洪 水 強 風 雷				その他
		大	雨	洪	水		大	雨	洪	水	
平成30年	10	4	1	4	1	191	18	7	12	68	86
令和元年	1	0	0	1	0	183	23	6	15	75	64
2	1	1	0	0	0	159	22	5	7	66	59
3	7	5	2	0	0	166	24	9	7	64	62
4	10	3	3	1	3	163	24	9	6	65	59
4 1月	0	0	0	0	0	14	0	0	0	1	13
2	2	0	0	0	2	10	0	0	1	1	8
3	0	0	0	0	0	16	0	0	0	3	13
4	0	0	0	0	0	14	0	0	1	7	6
5	1	0	1	0	0	12	1	2	0	4	5
6	0	0	0	0	0	17	1	0	0	11	5
7	5	3	2	0	0	22	8	4	0	9	1
8	0	0	0	0	0	21	11	1	0	9	0
9	1	0	0	1	0	16	3	2	3	8	0
10	0	0	0	0	0	6	0	0	0	3	3
11	0	0	0	0	0	9	0	0	0	6	3
12	1	0	0	0	1	6	0	0	1	3	2

※ 春日井市を対象に発表された状況

資料：春日井市統計書 令和5年版

資料4 過去の主な風水害等

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
大正元年(1912) 9月22～23日	暴風雨	971.4	28.2 南南東	102.9	②死者140、負傷者180、 全壊6,000
大正8年(1919) 9月16～17日	暴風雨				②死者4、全壊40、 浸水700
大正10年(1921) 9月25～26日	暴風雨	986.7	18.3 南東	43.9	②死者27、負傷者22
大正14年(1925) 8月14～15日	大雨				②死者6、負傷者3、 全壊25、浸水20,000
大正14年(1925) 9月11日	暴風雨	996.0	22.8 南南東	186.8	②死者12、負傷者3、 全壊52、浸水20,000
大正15年(1926) 9月4日	暴風雨	989.1	20.8 北北西	52.9	②死者23、負傷者70、 全壊166、浸水1,400
昭和5年(1930) 7月19日	大雨				②死者13、負傷者2 全壊13、浸水2,000
昭和7年(1932) 7月1～2日	大雨				②死者26、負傷者9、 全壊30、浸水2,700
昭和9年(1934) 9月21日	暴風雨(室戸台風)	975.9	32.9 南南東	24.0	②死者8、負傷者68、 全壊85
昭和10年(1935) 10月27日	大雨				②死者1、全壊2、 浸水13,000
昭和11年(1936) 10月2～3日	暴風雨	984.6	12.7 北	198.2	②死者2、負傷者8、 全壊4、浸水15,000
昭和13年(1938) 7月3～5日	大雨				②死者2、全壊6、 浸水4,500
昭和19年(1944) 10月7～8日	暴風雨	975.3	3.7 南南東	80.8	②死者5、負傷者2、 全壊95、浸水700
昭和20年(1945) 9月18日	暴風雨(枕崎台風)	988.7	20.2 南南東	40.3	②死者4、負傷者8、 全壊400、浸水600
昭和20年(1945) 10月11日	暴風雨(阿久根台風)	997.1	14.0 南南東	228.9	②死者1、全壊1、 浸水6,000
昭和25年(1950) 9月3日	暴風雨(ジェーン台風)	995.4	26.7 南東	47.4	②死者6、負傷者36、 全壊40、浸水300
昭和27年(1952) 6月23～24日	暴風雨(ダイナ台風)	991.3	13.7 北北東	177.2	②死者1、全壊3、 浸水6,800
昭和27年(1952) 7月10～11日	大雨				②負傷者3、全壊5、 浸水52,000
昭和28年(1953) 9月25日	暴風雨・高潮 (台風13号)	970.0	22.6 北北西	178.1	②死者75、負傷者623、 全壊6,769、浸水90,000
昭和29年(1954) 7月30日	大雨				②死者3、負傷者1、 全壊15、浸水6,870

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
昭和 30 年(1955) 10 月 20 日	暴風雨 (台風 26 号)	989.7	20.8 南南東	34.3	②死者 3、負傷者 18、 全壊 65、半壊 61、 一部破損 113、床上浸水 14、床下浸水 599
昭和 32 年(1957) 8 月 7 日	大雨 (多治見大雨)				②死者 33、負傷者 44、 全壊 88、半壊 89、 床上浸水 3,547、 床下浸水 13,961
昭和 33 年(1958) 8 月 25 日	暴風雨 (台風 17 号)	999.0	17.7 南東	139.9	②死者 3、負傷者 1、 全壊 9、半壊 25、 一部破損 248、 床上浸水 116、 床下浸水 4,682
昭和 34 年(1959) 8 月 14 日	大雨	993.5	13.4 西北西	234.0	②負傷者 1、全壊 1、 半壊 20、一部破損 2、 床上浸水 14、 床下浸水 80,826
昭和 34 年(1959) 9 月 26 日	暴風雨・高潮 (伊勢湾台風)	958.5	37.0 南南東	165.7	①伊勢湾を中心とした、 台風と高潮による災害 ②死者 3,168、 行方不明 92、 負傷者 59,045、 全壊 23,334、 流失 3,194、 半壊 97,049、 一部破損 287,059、 床上浸水 53,560、 床下浸水 62,831 ③県全域 (沿岸部中心) ④3,224 億円
昭和 36 年(1961) 6 月 23～29 日	大雨(36.6 梅雨前線 豪雨)			398 ※立田 682	①集中豪雨による、河川 のはんらん等の被害 ②死者 4、行方不明 2、 負傷者 13、全壊 29、 流失 2、半壊 72、 床上浸水 7,969 床下浸水 66,654 ③県全域 (尾張地域中心) ④111 億円
昭和 36 年(1961) 9 月 16 日	暴風雨(第二室戸台風)	971.7	28.7 南南東	96.4	①集中豪雨による中小河 川のはんらん、暴風雨 によるたつまき等の被害

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
					②死者 3、負傷者146、 全壊 168、半壊 515、 床上浸水 652、 床下浸水 8,868 ③尾張地域 ④104 億円
昭和 37 年(1962) 6 月 30 日～ 7 月 5 日	大雨（前線）			103 ※伊良湖 236	①局地的集中豪雨による 中小河川のはんらん等 の被害 ②死者 2、負傷者 1、 全壊 2、 床上浸水 1,605、 床下浸水 15,501 ③東三河、尾張地域
昭和 37 年(1962) 8 月 26 日	暴風雨（台風 14 号）	996.5	23.3 南南東	110	②死者 1、負傷者 9、全壊 26、半壊 28、床上浸水 177、床下浸水 7,556 ③県全域 ④42 億円
昭和 39 年(1964) 9 月 25 日	暴風雨（台風 20 号）	992.8	22.0 南南東	105.2	①雨による被害 ②死者 2、負傷者 10、 全壊 6、半壊 12、 床上浸水 23、 床下浸水 2,298 ③県全域（主に名古屋、 尾張、海部、知多） ④26 億円
昭和 40 年(1965) 9 月 17 日	暴風雨（台風 24 号）	970.2	17.0 北	188.6	①雨による被害 ②死者 1、負傷者 18、 全壊 12、半壊 62、 床上浸水 1,728、 床下浸水 49,622 ③県全域（主に名古屋、 海部の平野部） ④93 億
昭和 41 年(1966) 10 月 12 日	大雨（東三河集中豪雨）			54 ※田原 345	①集中豪雨による中小河 川のはんらん等の被害 ②死者 10、負傷者 14、 全壊 18、半壊 11、 床上浸水 11、 床下浸水 20,747 ③東三河地域（豊橋市、 田原町中心） ④42 億円

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
昭和43年(1968) 8月29日	大雨(台風10号)	991.5	15.7 南南東	179 ※茶臼 山 587	①集中豪雨による中小河 川はんらん、山(がけ) 崩れ等の被害 ②死者6、負傷者15、 全壊24、半壊24、 一部破損45、 床上浸水292、 床下浸水4,314 ③奥三河地域(新城市、 南・北設楽郡の山間部) ④59億円
昭和44年(1969) 8月4～5日	大雨(台風7号)	990.6	14.8 東南東	64 ※新城 365.5	①集中豪雨による河川の はんらん 山(がけ) 崩 れ等の被害 ②死者3、負傷者5、 全壊10、半壊36、 一部破損81、 床上浸水661、 床下浸水3,515 ③奥三河地域(新城市、 宝飯郡、南・北設楽郡 の山間部) ④45億
昭和45年(1970) 7月29～30日	集中豪雨	1,010.8	7.7 東北東	123.5	②死者3、負傷者4、 全壊2、半壊7、 床上浸水4,552、 床下浸水37,946 ③尾張地域 ④18億円
昭和46年(1971) 8月30～31日	大雨(台風23号)	987.5	10.0 東	321.5	②死者4、負傷者15、 全壊19、半壊127、 一部破損228、 床上浸水6,136、 床下浸水59,160 ③県全域 ④176億円
昭和47年(1972) 7月12～13日	集中豪雨 (47.7豪雨、台風6号)			289 ※猿投 458	①集中豪雨による山 (がけ)崩れ、河川の はんらん等の被害 ②死者46、行方不明4、 負傷者112、全壊271、 半壊287、 床上浸水20,075、 床下浸水12,077 ③西三河地域(小原村、 藤岡町、豊田市、足助

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
					町の山間部) ④302 億円
昭和 49 年(1974) 6 月 4～5 日	大雨			※半田 231	①低気圧とそれに伴う梅 雨前線による大雨で、 土砂崩れ、家屋の浸水 の被害 ②負傷者 15、全壊 3、 半壊 2、 床上浸水 1,050、 床下浸水 4,501 ③知多地域（半田市、 常滑市、南知多町ほか 12 市町） ④155 億円
昭和 49 年(1974) 7 月 7 日	豪雨（七夕豪雨、 台風 8 号）	1,008.2	6.7 南東	65 ※新城 323 東栄 302 南知多 285	①台風と梅雨前線による 集中豪雨で、がけ崩れ、 中小河川のはんらん、 橋りょうの流失等の被害 ②死者 3、負傷者 12、 全壊 16、半壊 70、 床上浸水 1,820、 床下浸水 11,800 ③知多、東三河地域（豊 橋市、蒲郡市、南知多 町ほか、31 市町） ④195 億円
昭和 49 年(1974) 7 月 24～25 日	大雨			139.8 ※津島 333 常滑 315 一宮 237	①集中豪雨による多数の 家屋の浸水被害 ②死者 1、負傷者 7、 床上浸水 7,248、 床下浸水 74,035 ③県全域（尾張、海部、 知多中心） ④92 億円
昭和 51 年(1976) 9 月 8～13 日	集 中 豪 雨 (51.9 豪雨、 台風 17 号)	1,002.4	10.2 南東	422 ※一宮 682 南知多 602	①集中豪雨による中小河 川の被害 ②死者 1、負傷者 37、 全壊 14、半壊 437、 一部破損 461、 床上浸水 13,050、 床下浸水 102,677 ③尾張、海部、知多地域 (59 市町村)

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
					④378 億円
昭和 54 年(1979) 9 月 24～25 日	豪雨			94 ※名古屋 市港区 224 1 時間 雨量 108	①雷を伴った前線による 局地的な集中豪雨で、 家屋の浸水、道路・河 川等の被害 ②死者 2、 床上浸水 1,665、 床下浸水 33,351 ③県西部（名古屋市、 東海市ほか 18 市町村） ④26 億円
昭和 54 年(1979) 9 月 28 日～ 10 月 1 日	暴風雨（台風 16 号）	981.9 ※小牧 978.2	17.7 南東 ※伊良湖 21.3 南	50 ※茶臼 山 170	①台風の通過による家屋 損壊、農水産物・公共 土木施設等の被害 ②死者 1、負傷者 23、 全壊 2、半壊 20、 一部破損 217、 床上浸水 9、 床下浸水 178 ③県全域 ④65 億円
昭和 54 年(1979) 10 月 18～19 日	暴風雨（台風 20 号）	971.9 ※小牧 969.4	14.2 西 ※伊良湖 20.0 南	80 ※作手 282 茶臼山 279 鳳来 233	①台風の通過による家屋 損壊、農林水産物・公 共土木施設等の被害 ②行方不明 1、負傷者 8、 全壊 4、半壊 5、 一部破損 26、 床上浸水 39、 床下浸水 314 ③県全域 ④113 億円
昭和 57 年(1982) 8 月 1～3 日	暴風雨（台風 10 号と 低気圧）	975.1 ※伊良湖 973.0	9.4 南南西 ※伊良湖 21.1 東	184.5 ※鳳来 501 伊良湖 444	①台風と低気圧による大 雨に伴う、家屋損壊、 公共土木施設・農地農 業用施設・農林水産物 等の被害 ②負傷者 9、全壊 1、 半壊 4、一部破損 91、 床上浸水 230、 床下浸水 2,777 ③県全域 ④131 億円

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
昭和 57 年(1982) 9 月 11～12 日	暴風雨 (台風 18 号)	984.1 ※伊良湖 980.5	10.3 北 ※伊良湖 19.7 北北西	134.0 ※伊良湖 306.5	①台風による家屋損壊、 公共土木施設・農産物 等の被害 ②死者 1、負傷者 1、 半壊 1、一部破損 4、 床上浸水 7、 床下浸水 324 ③主に県東部 ④23 億円
昭和 58 年(1983) 8 月 16～17 日	暴風雨 (台風 5 号)	982.0 ※伊良湖 974.9	7.2 西北西 ※伊良湖 19.0 東北東	100 ※豊橋 419	①台風による家屋損壊、 公共土木施設・農林 産物等の被害 ②負傷者 1、全壊 1、 半壊 1、一部破損 3、 床上浸水 33、 床下浸水 356 ③主に県東部 ④約 13 億円
昭和 58 年(1983) 9 月 27～28 日	暴風雨 (台風 10 号)	992.2	9.5 北 ※伊良湖 11.2 南南東	234 ※小原 291 茶臼山 305	①台風、特に豪雨による 家屋損壊、公共土木施 設・農林水産業施設・ 農水産物等の被害 ②死者 5、負傷者 1、 全壊 2、半壊 1、 一部破損 25、 床上浸水 762、 床下浸水 16,974 ③主に県西部 ④約 28 億円
平成元年(1989) 9 月 2～4 日	大雨			132 ※茶臼 山 325	①低気圧に伴う寒冷前線 ②死者 1、負傷者 3、 全壊 1、一部破損 2、 床上浸水 3、 床下浸水 139 ③県全域 ④約 24 億円
平成元年(1989) 9 月 19～20 日	台風 22 号			47 ※茶臼 山 295	①台風、特に豪雨による 土砂災害により家屋損 壊、公共土木施設・農 林水産業施設等の被害 ②死者 2、負傷者 1、 全壊 18、半壊 11、 一部破損 9、 床上浸水 121、

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
					床下浸水 134 ③県全域 (東加茂郡中心) ④約 92 億円
平成 2 年(1990) 9 月 19～20 日	台風 19 号	972.5 ※伊良湖 976.9	20.1 南南東 ※伊良湖 26.2 南	95 ※作手 254	①台風による農業用施設・農作物に著しい被害 ②負傷者 29、全壊 2、半壊 28、一部破損 2, 297、床上浸水 67、床下浸水 1, 408 ③県全域 ④約 153 億円
平成 3 年(1991) 9 月 18～19 日	台風 18 号	987.6 ※伊良湖 987.3	7.7 西北西 ※伊良湖 12.6 東	242 ※南知多 316	①台風により、特に住宅に著しい被害が発生し、名古屋市の 3 区と春日井市に災害救助法が適用 ②死者 2、軽傷者 1、全壊 2、一部破損 9、床上浸水 3, 713、床下浸水 12, 131 ③県全域 ④約 60 億円
平成 6 年(1994) 4 月 26 日	中華航空機 墜落事故		※春日井 (発生時) 3.8 西		①午後 8 時 16 分頃、中華航空のエアバスが、着陸に失敗し墜落、飛散炎上した ②機体全焼、死者 264、負傷者 7、物損被害等 6 ③名古屋空港滑走路南端着陸帯
平成 12 年(2000) 9 月 11～12 日	東海豪雨			※春日井 513.5 最大時間雨量 88.0	①台風 14 号の影響により秋雨前線が刺激され記録的な豪雨となり、家屋の浸水、道路・河川等に甚大な被害が発生し県内 21 市町に災害救助法適用 ②春日井市 床上浸水 364 床下浸水 727 ③県全域

年 月 日	種 別 (名称)	名 古 屋 の 記 録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
					④市約 25 億円
平成 13 年(2001) 8 月 21～22 日	台風 11 号				① 風の通過による災害 ② 死者 1 名、 負傷者 1 名、 床上浸水3棟、 床下浸水165棟 ③ 県内全域 ④ 約3億円
平成 15 年(2003) 8 月 8～9 日	台風 10 号		28.0 東南東 ※名古屋		① 風の通過による災害 ② 負傷者 5 名、 一部損壊 5 棟、 床上浸水 1 棟、 床下浸水15棟 ③ 県内全域 ④ 約24億円
平成 16 年(2004) 6 月 21 日	台風 6 号		34.0 ※名古屋		① 風の通過による災害 ② 負傷者27名、 半壊 1 棟、 一部損壊16棟、 床上浸水 1 棟、 床下浸水 3 棟 ③ 県内全域 ④ 約13億円
平成 16 年(2004) 10 月 20～21 日	台風 23 号		33.0 南 ※名古屋		① 風の通過による災害 ② 死者 1 名、 負傷者18名、 一部損壊41棟、 床上浸水21棟、 床下浸水160棟 ③ 県内全域 ④ 約17億円
平成 20 年(2008) 8 月 28～30 日	8 月末豪雨			237 ※名古屋 最大時 間雨量 146.5 ※岡崎	① 停滞していた前線に 非常に湿った空気が流 れ込んだため、前線の 活動が活発となり、県 内各地で記録的な大雨 となった。このため、 名古屋市及び岡崎市 で、災害救助法及び被 災者生活再建支援法の 適用がされた。 ② 広田川が破堤。 死者 2 名、負傷者 5 名、 住家の全壊 5 棟、

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
					半壊3棟、 一部損壊29棟、 床上浸水2,480棟、 床下浸水14,106棟 ③県内全域 ⑤ 107億円
平成21年(2009) 10月7～8日	台風18号		29.9 ※名古屋	206 ※東海	① 台風第18号が知多半島付近に上陸し、特に農業用施設、農産物の被害が著しかった。 ② 負傷者19名、家屋全壊6棟、半壊41棟、一部損壊2,092棟、床上浸水246棟、床下浸水1,235棟 ③ 県内全域 ④ 約134億円
平成23年(2011) 9月20～21日	台風15号			344 ※春日井 最大時間雨量 68.0	① 奄美大島近海で迷走後に勢力を強め、21日14時頃に浜松市付近に上陸。名古屋市では100万人を超える市民に対し避難勧告が出された。 ② 死者4名、負傷者8名、家屋一部損壊69棟、床上浸水239棟、床下浸水572棟 ③ 県内全域 ④ 約30億円
平成24年(2012) 6月19日	台風4号		18.8 ※名古屋 27.7 ※伊良湖	53 ※名古屋 239 ※阿蔵	① 19日17時過ぎに和歌山県南部に上陸した台風第4号は、その後紀伊半島の東岸を北東に進み、伊勢湾を通過し、20時過ぎに愛知県東部に再上陸した。豊田市阿蔵では1時間降水量65.5mmの非常に激しい雨を観測するな

年 月 日	種 別 (名称)	名古屋の記録			県下の被害概要 ① 被害の特徴 ② 被害の程度 ③ 発生場所 ④ 被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風 向	総雨量 (mm)	
					ど、東部を中心に大雨となった。 ② 負傷者6名、家屋一部損壊8棟、床下浸水4棟 ③ 県内全域 ④ 約5億円

資料：愛知県地域防災計画附属資料（平成29年修正）

資料5 東海地方に影響のあった主な台風

1 昭和9年9月20日（室戸台風）

この台風は、時速 20 kmくらいで海上を進み、19 日の夜に沖縄南方に近づいた。ここで方向を北東に転向して土佐沖を進み、20 日の夜半すぎに室戸付近へ非常に強い大型台風として時速 60 kmで上陸した。上陸後は徳島、淡路島、神戸市、和田岬、宝塚、池田、敦賀の西方を通過したのち、時速を 70 km～90 kmに速め、勢力を衰えながら本州を縦断して宮古付近から北東の海上へ去った。

2 昭和28年9月25日（台風13号）

この台風は、トラック島の南東 150 kmの海上に発生し、西から次第に北西に進み、22 日の夜には沖ノ鳥島の西方洋上で急速に発達して猛烈な大型台風になった。この辺りから方向を四国沖に向け北上し、25 日の 17 時すぎに志摩半島を横断、毎時 40 kmぐらいの速さで伊勢湾をへてカムチャッカ半島へ去った。

3 昭和34年9月26日（伊勢湾台風）

この台風は、エニウエトック島の西 250 kmの海上に発生した熱帯低気圧が発達したもので、台風として認められたのは、9月21日北緯 15° 東経 150° 付近に達した頃からである。その後9月23日にはマリアナ群島で中心気圧が 894hpa に発達して、超大型台風になり、北上して9月26日の夜紀伊半島に上陸後まで勢力はあまり衰えなかった。台風の本邦上陸に当たり、風速の最大区域が台風中心経路の東側 70 km付近の志摩半島東部から伊勢湾にかけて舌状にのびていた。これにより伊勢湾に記録的な高潮が発生した。

4 昭和36年9月16日（第2室戸台風）

マーシャル群島付近で発生した弱い熱帯低気圧が9月8日の15時に台風18号となった。12日の朝にはマリアナ群島の南西海上で 900hpa 以下の超大型台風に発達し、14日の夜半に沖縄の東側でゆっくり転向し、16日の朝には四国南海上から室戸岬をかすめて大阪湾に向かい、同日13時30分頃尼崎と西宮の間に上陸した。その後15時頃には敦賀付近に進んだ。台風の規模も進路も昭和9年の室戸台風に似た台風であった。

5 昭和37年7月27日（台風7号）

この台風は、硫黄島の東方およそ 1,500 kmの海上に発生したもので、発生地が非常に北東に偏っていた。発生後1日はほぼ北上し、2日目からは西進して

27日に四国南東海上で転向、潮岬と白浜の間に27日の13時頃に上陸して、東海道西部、関東北部を通過して三陸沖に去った。海上を進行中は、965hpaぐらいの中心気圧で中型の規模だったが、上陸後は急に衰え、28日には早くも1,000hpaの熱帯低気圧になった。

6 昭和37年8月26日（台風14号）

この台風は、8月21日の9時にマリアナ群島の海域で発生した。硫黄島付近にかかった頃には中心気圧が950hpaになり、にわかに注目されるようになった。いわゆる夏台風特有の小型台風であった。小笠原諸島の父島西方を過ぎる頃から向きを北に変え、そのまま中部日本に向かって北上した。26日の4時頃に中心が三重県の北牟婁郡中島付近に上陸し、その後も真っ直ぐ北上して琵琶湖付近を通過して日本海にぬけた。

7 昭和46年8月30日～31日（台風23号）

この台風は、8月21日の9時に南鳥島の南西で発生し、ゆっくり北西のち西北西に進み、28日の朝には奄美大島の南東方に達した。この頃から移動速度が更に遅くなり急に発達し始め、屋久島付近を通過する頃を中心気圧は915hpaに低下した。29日の夜半頃に大隅半島（佐多岬）に上陸し、四国から大阪付近、三重県南部を通り、31日の昼頃に伊良湖岬をかすめて東方へ去った。

8 昭和47年9月16日（台風20号）

この台風は、9月13日の12時に沖ノ鳥島の南500kmに発生した。ゆっくり北西に進み、沖ノ大東島の南海上で転向し、進行方向を北～北北東に変えた。一方、15日の15時には低気圧が北朝鮮の元山沖約400kmにあり、閉塞前線が南東にのびて愛知県付近に達し、愛知県ではこの前線の影響により、15日の朝から降雨が強くなった。台風は16日の18時30分頃に潮岬付近に上陸し、その後、紀伊半島を縦断して三重県を経て、岐阜県西部を通り、17日の朝5時には佐渡ヶ島付近に達し、午後には北海道西岸に去った。

9 昭和54年9月28日～10月1日（台風16号）

9月23日の15時にヤップ島の北西海上で台風となった16号は、発達しながら北西に進み、26日の朝には沖縄の南南東の海上で中心気圧が920hpaとなり、最盛期を迎えた。26日の昼頃から速度を落としながら北向きにコースを変え、29日の15時には奄美大島の東海上に達した。台風はこの頃から更に向きを北東に変えながら次第に加速し、30日の18時30分頃に高知県の室戸付近に上陸

(955hpa) した。23 時頃には大阪市に達し (965hpa、大型、並みの強さ)、岐阜市の北を通過して本州を北東に縦断し、10 月 1 日の 9 時には八戸沖へぬけた。

10 昭和 54 年 10 月 18 日～19 日 (台風 20 号)

10 月 6 日の 15 時にトラック島の東で台風となった 20 号は、8 日の朝から北西に進み始め、9 日の夜、グアム島の南海上を通過した頃から急速に発達した。12 日の 15 時には、沖ノ鳥島の南南東約 400 km の海上で中心気圧 870hpa を観測し、最盛期 (大型、猛烈な台風) となった。その後ゆっくりした速さで西北西に進み、16 日の早朝から北北西に向きを変え、18 日の 9 時には沖縄の南約 150 km の海上に達した。台風はこの頃から次第に北東へ向きを変えながら加速し、19 日の 9 時 40 分頃に和歌山県白浜付近に上陸 (965hpa、大型、並みの強さ)、名古屋市の西を通過して本州を北東に縦断し、19 時には八戸沖へぬけた。

11 平成 2 年 9 月 19 日～20 日 (台風 19 号)

グアム島の北西海域で発生した弱い熱帯低気圧は、9 月 13 日に台風 19 号となり、発達しながら北西に進み、16 日から 17 日にかけて、ゆっくり沖縄の南東海上に近づき急激に発達した。17 日の午後には中心気圧 890hpa を記録し、猛烈な台風となった。その後台風は北東に進み、950hpa 以下の勢力を保ったまま、19 日の 20 時過ぎに和歌山県の白浜の南に上陸した。上陸後は速度を上げて近畿地方から東海地方を通り、本州を縦断して 20 日の 12 時には三陸沖へぬけた。

12 平成 3 年 9 月 18 日～19 日 (台風 18 号)

台風 18 号は、9 月 18 日に沖縄の東沖を加速しながら北東へ進み、それに伴い本州上の秋雨前線の活動が活発となった。台風は 19 日の夕方に八丈島の南を通り、夜には銚子沖に達して 20 日の早朝に三陸沖で温帯低気圧となった。このため、東海地方を含め太平洋岸各地では記録的な大雨となり、被害は東海地方から東北地方の 16 都県に及んだ。愛知県では、既に 18 日の午前中に全域が雨となり、夜半過ぎから所々で激しく降り、18 日・19 日にかけて 100～300 mm の大雨となった。名古屋では 19 日の日雨量 217.5 mm を観測し、これは累年第 2 位の記録となった。

13 平成 6 年 9 月 29 日～30 日 (台風 26 号)

9 月 19 日の 3 時にグアム島の南西海上で台風となった 26 号は、発達しながら概ね北に進路をとり、29 日の 19 時半頃に大型で強い勢力を保ったまま和歌

山県南部に上陸した。上陸したときの中心気圧は 950hpa、中心付近の最大風速は 40m/s であった。上陸後は、勢力を弱めながらやや速度を速め、琵琶湖付近を通過して 30 日の 3 時には石川県沖に進んだ。この台風の影響により、東部の山間部では総雨量が 200 mm を超えた。

14 平成 10 年 9 月 21 日～23 日の台風第 7 号と台風第 8 号

9 月 17 日 21 時にフィリピンの西の海上で発生した台風第 7 号は、徐々に発達しながら南西諸島の東海上を北東進した。また、台風第 8 号は 9 月 20 日に日本の南海上で発生し、北上した。

日本への上陸は第 8 号のほうが早く、21 日 16 時前に和歌山県田辺市付近に上陸し、翌日の 22 日 13 時過ぎには第 7 号が和歌山県御坊市付近に上陸した。

第 8 号の上陸時の勢力はごく小さく、弱いものであったが、21 日夜に一時風雨が強くなった。第 8 号は強い雨が顕著で、東部の山間部では 21 日の 21 時から 23 時にかけて、1 時間に 40～60mm の激しい雨が降った。

一日遅れて上陸した第 7 号は、中型で、強い勢力を保って 22 日 15 時頃に滋賀県をとおり、北陸へ向かった。台風が愛知県の西を強い勢力で進んだことから、県内では南寄りの暴風が吹き荒れ、名古屋では最大瞬間風速、南南東の風 42.6m/s を観測した。この値は昭和 34 年の伊勢湾台風時に観測した 45.7m/s に次ぐ観測開始以来第 2 位の記録となった。

15 平成 12 年 9 月 11 日～12 日の台風第 14 号

サイパン島の東海上にあった熱帯低気圧は、9 月 2 日 21 時に台風第 14 号となった。10 日 09 時には南大東島の東南東の海上に達し、大型で非常に強い勢力に発達した。一方、9 月 11 日から 12 日にかけて、日本付近には秋雨前線が停滞しており、この前線に向かって台風第 14 号からの暖かく湿った空気が多量に流れ込んで活動が活発となり、愛知県を中心とした東海地方で記録的な大雨となった。

愛知県では県西部を流れる「新川」の堤防が決壊したのをはじめ、河川の破堤は 20 箇所には達したほか、名古屋市内では広範囲に浸水被害が発生した。

この大雨で、名古屋地方気象台が観測した日最大 1 時間降水量 97.0mm、日最大降水量 428.0mm、月最大 24 時間降水量 534.5mm は、いずれも統計開始以来最も多い値となった。

台風は、12 日 19 時過ぎには沖縄を通過し、東シナ海で向きを北寄りに変え、

九州の西海上を北東に進んで朝鮮半島に上陸した。その後、日本海に進み 16 日 15 時には日本海西部で温帯低気圧となった。

16 平成 15 年 8 月 8 日～9 日の台風第 10 号

台風第 10 号は 8 月 3 日 15 時にフィリピンの東で発生し、7 日 15 時には大型で非常に強い台風となった。台風第 10 号は強い勢力を維持したまま 8 日 21 時 30 分頃に高知県室戸市付近に上陸し、いったん瀬戸内海に抜けた後、9 日 6 時頃に兵庫県西宮市付近に再上陸した。その後はやや勢力を弱めながら本州を縦断するように北東に進み、10 日 6 時に千島近海で温帯低気圧に変わった。

台風第 10 号は動きが比較的遅く、愛知県では台風からの湿った南よりの風が長時間続いたため、茶臼山で 390mm の総降水量を観測するなど愛知県東部の山地で雨量が多くなった。

風も非常に強く吹き、名古屋で 9 日 6 時 17 分に東南東の風 28.0m/s、伊良湖で 9 日 1 時 26 分に南の風 27.3m/s の最大瞬間風速を観測した。

17 平成 16 年 10 月 8 日～9 日の台風第 22 号

台風第 22 号は、10 月 4 日 12 時にフィリピンの東で発生し、8 日 3 時には中心気圧 920hPa、中心付近の最大風速 50m/s の非常に強い台風となった。その後、台風はゆっくり北上し、9 日 16 時頃伊豆半島に上陸、関東地方南部を経て茨城県沖へ進み 10 日 9 時に日本の東で温帯低気圧となった。

台風が愛知県に最も接近したのは 9 日 14 時から 15 時頃であった。台風の北上と停滞前線の影響により愛知県では多いところで 2 日間で 300mm を超える大雨となり、9 日には約半数の観測所で 10 月としての日降水量の極値を更新した。

18 平成 16 年 10 月 20 日～21 日の台風第 23 号

台風第 23 号は、10 月 13 日 9 時にマリアナ諸島で発生し、16 日 21 時には中心気圧 940hPa、中心付近の最大風速 45m/s、暴風半径 280km、強風半径 1100km の超大型で非常に強い台風となった。

その後、台風第 23 号はゆっくり北上し、20 日 13 時頃に高知県土佐清水市付近に上陸、近畿地方から東海地方を経て 21 日 9 時に関東の東海上で温帯低気圧となった。

台風が愛知県に最も接近したのは 20 日宵の内から夜遅くで、名古屋では 20 日 18 時 39 分に南の風 33.2m/s、伊良湖では 17 時 28 分に南東の風 35.2m/s の最大瞬間風速を観測した。また、総降水量は、津具村茶臼山で 265mm となり、

東三河北部を中心に 200mm を超える大雨となった。

19 平成 21 年 10 月 7 日～8 日の台風第 18 号

台風第 18 号は 9 月 30 日 9 時に発生し、ゆっくりと西に進み、10 月 4 日 9 時にはフィリピンの東で、中心気圧 920hPa、最大風速 55m/s の猛烈な台風に発達した。

台風は 6 日から 7 日にかけて南大東島付近を通過し、中心気圧 940hPa、最大風速 45m/s の強い勢力を維持したまま、北北東から北東に進み、8 日 5 時すぎに知多半島付近に上陸後、愛知県から関東甲信地方へ進んだ。

この台風の影響により、伊良湖では 8 日に日最大瞬間風速 39.9m/s を観測した（1953 年の観測開始以来 10 月の極値を更新）。また、名古屋では、8 日に日最大 1 時間降水量 67.0mm を観測した（1890 年の観測開始以来 10 月の極値を更新）。

20 平成 23 年 9 月 2 日～4 日の台風第 12 号

台風第 12 号は、8 月 25 日 9 時にマリアナ諸島の西の海上で発生し、発達しながらゆっくりとした速さで北上し、30 日には小笠原諸島付近で中心気圧が 965 ヘクトパスカル、最大風速が 35 メートルの大型で強い台風となった。台風は、いったん西に進んだ後北へ向きを変え、9 月 2 日には大型の台風となって暴風域を伴ったまま四国地方に接近し、3 日 10 時前に高知県東部に上陸した。台風はその後もゆっくりとした速さで北上を続け、18 時頃に岡山県南部に再上陸した後、4 日未明に山陰沖に進み、5 日 15 時に日本海中部で温帯低気圧に変わった。

台風が大型でさらに動きが遅かったため、長時間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、県内では、降り始め（2 日 9 時）から 5 日 14 時までの降水量は、西三河北東部、東三河北部で 300 mm を超え、豊田市稲武では 330.0 mm を観測した。

21 平成 23 年 9 月 20 日～21 日の台風第 15 号

台風第 15 号は、9 月 13 日 21 時に日本の南で発生し、北に進んだ後西に向きを変え、16 日にかけて大東島地方に向かって進んだ。台風は、南大東島の西海上を反時計回りに円を描くようにゆっくり動いた後、19 日 21 時には最大風速が 35m/s の強い台風となって奄美群島の南東海上を北東に進み、20 日 21 時には中心気圧が 940hPa、最大風速が 50m/s の非常に強い台風となった。台風は、

速度を速めつつ四国の南海上から紀伊半島に接近した後、21 日 14 時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、強い勢力を保ったまま東海地方から関東地方、そして東北地方を北東に進んだ。

県内では、19 日夕方から、東海地方に上陸し関東地方に進んだ 21 日夕方にかけて、断続的に強い雨が降り、特に 20 日は、名古屋市などで激しく降るなど、尾張東部から中濃・東濃にかけて大雨となり、庄内川が氾濫しました。降り始め（19 日 17 時）から 21 日 19 時までの降水量は、尾張東部、東三河北部で 300 mmを超えたところがあり、豊田市阿蔵では 383.5 mmを観測した。また、台風が最接近した 21 日昼頃から沿岸部では非常に強い風が吹き、伊良湖で 21 日 12 時 34 分に日最大瞬間風速 33.0m/s を観測した。

22 平成 24 年 6 月 19 日の台風第 4 号

台風第 4 号は、6 月 12 日 15 時にカロリン諸島で発生し、フィリピンの東海上に達した後、進行方向を変え発達しながら北上した。18 日には沖縄の南海上、19 日 9 時には九州の南海上を北北東に進み、強い勢力を維持しながら本州に接近し、19 日 17 時過ぎに和歌山県南部に上陸した。

その後、台風は紀伊半島の東岸を北東に進み、伊勢湾を通過し、20 時過ぎに愛知県東部に再上陸した。その後も北東に進み、関東甲信地方を通過し、20 日 9 時には東北地方の東海上に達し温帯低気圧に変わった。

県内では、この台風と梅雨前線の影響により大雨となり、19 日昼前から、断続的に強い雨が降り、台風本体の雨雲がかかり始めた夜には、豊田市阿蔵で 1 時間降水量 65.5 mmの非常に激しい雨を観測するなど、東部を中心に大雨となった。降り始め（19 日 0 時）から 20 日 6 時までの降水量は、豊田市阿蔵では 239.0 mmを観測した。また、19 日午後から東よりの風が強まり、夜には豊橋で最大瞬間風速 29.1m/s を観測するなど東部を中心に東よりの強い風が吹いた。

23 平成 25 年 9 月 16 日の台風第 18 号

9 月 13 日 3 時に小笠原の近海で発生した台風第 18 号は、日本の南海上を北西に進みながら 14 日 9 時に大型となり、15 日夕方には四国の南海上に達した。その後、台風は進路を北東に変え、近畿地方や東海地方を暴風域に巻き込みながら東海道沖を北東に進み、16 日 8 時前に愛知県豊橋市付近に上陸した（8 時の中心気圧は 970hPa）。台風は上陸後も勢力を維持したまま北上し、暴風域を伴って関東甲信地方を北東に進んだ後、東北地方南部を経て 16 日 18 時には三陸沖

に達した。

愛知県では、14 日夜から台風の北側の雨雲がかかりはじめ、15 日夕方にかけて所々で雨が降ったが、15 日夜遅くから県内全域で雨となった。台風本体の雨雲がかかった 16 日朝には、東部を中心に非常に激しい雨が降り、特に豊田市小原では 16 日 9 時 6 分までの 1 時間に 96.0 ミリの猛烈な雨が降り、観測開始以来の極値を更新した。降り始め（14 日 21 時）から 16 日 16 時までの降水量は、豊田市阿蔵で 321 ミリを観測した。解析雨量では、9 月 16 日 16 時までの 48 時間に、豊田市東部付近、新城市付近、設楽町付近で約 350 ミリとなった。風については、15 日午後から南東よりの風が強まり、16 日朝にかけ海上を中心に南東の非常に強い風が吹いた。また、台風の通過後は、北西の非常に強い風が吹いた。豊橋市豊橋では、最大瞬間風速 39.4 メートル（16 日 7 時 20 分）を記録した。海上では 15 日早朝から波やうねりが高くなり、16 日は大しけとなった。

24 平成 26 年 8 月 9～10 日の台風第 11 号

台風第 11 号は、7 月 29 日 12 時にマリアナ諸島付近で発生し、8 月 4 日 9 時にはフィリピンの東に進んだ。その後、進路を次第に北に変え、日本の南から四国の南に進み、8 月 10 日 6 時過ぎに高知県安芸市付近に上陸した。その後、台風は兵庫県赤穂市付近に上陸し、8 月 10 日の昼過ぎには日本海に達した。8 月 11 日 9 時には日本海北部で温帯低気圧に変わった。

台風の接近に伴い、北日本から西日本にのびる前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響により、8 月 9 日未明から 10 日にかけて大雨となった。

三重県では 8 月 9 日の日降水量が、津市白山で 435.5 ミリ、津市笠取山で 393.0 ミリ、亀山で 333.0 ミリを観測し、統計開始以来の極値を更新した。

降り始め（8 月 8 日 14 時）から 8 月 10 日 24 時までの総降水量は、三重県大台町宮川で 661.5 ミリ、三重県津市白山で 518.0 ミリとなった。

このため、三重県では 9 日 17 時 20 分に大雨特別警報が発表された。

25 平成 26 年 10 月 5 日～6 日の台風第 18 号

台風第 18 号は、9 月 29 日 15 時にトラック諸島近海で発生し、10 月 2 日 9 時にはフィリピンの東で大型で非常に強い台風となった。4 日 9 時には南大東島の東南東の海上に進み、次第に進路を北に変え、5 日 9 時には屋久島の南南東の海上で大型で強い台風となった。その後、進路を北から北東に変え、6 日

3時には潮岬の南南西の海上、6日6時には尾鷲市の東南東の海上を北東に進んだ。6日8時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸し、速度を上げて6日9時には静岡市付近、6日11時には東京23区付近を北東に進み、昼過ぎには関東の東に達した後、6日21時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、降り始めの5日1時から6日12時までの降水量は、豊橋市神野新田町で222.5mm、田原市伊良湖で187.0mm、新城市作手高里木戸口で179.0mmを観測した。常滑市セントレアでは最大風速21.8m/s、最大瞬間風速27.3m/s、豊橋市豊橋では最大風速19.3m/s、最大瞬間風速32.2m/sを観測した。

26 平成26年10月13日～14日の台風第19号

台風第19号は、10月3日21時にマーシャル諸島で発生したのち西北西に進み、7日21時にはフィリピンの東で猛烈な台風となり、次第に向きを北に変えながら10日3時には沖縄の南で大型で非常に強い台風となった。12日3時には大型で強い台風となり東シナ海を北上した後、12日夜遅くには進路を東に変え、13日8時半頃に鹿児島県枕崎市付近に上陸した。13日9時には大型の台風となり、九州南部を通過し海上に進んだ後、13日14時半頃に高知県宿毛市付近に上陸し、四国を北東に進み、13日20時半頃に大阪府岸和田市付近に上陸した。13日23時には愛知県一宮市付近を通過し、14日0時には岐阜県郡上市付近に進み、14日6時には三陸沖に進んだ後、14日9時には温帯低気圧に変わった。

愛知県では、降り始めの13日2時から14日4時までの降水量は、豊田市阿蔵町で125.5mm、愛西市江西町で125.0mm、豊根村茶臼山で124.0mmを観測した。常滑市セントレアでは最大風速22.0m/s、最大瞬間風速28.8m/sを観測した。海上では波の高さが7mの大しけとなった。潮位は、衣浦で10月13日19時38分に最大潮位偏差(瞬間値)77cm、10月13日19時38分に最高潮位(瞬間値)標高147cm、名古屋で10月13日19時42分に最大潮位偏差(瞬間値)73cm、10月13日19時42分に最高潮位(瞬間値)標高150cmを観測した。

27 平成27年9月9日の台風第18号

台風第18号は、9月7日3時に日本の南で発生し、ゆっくりした速さで北北西に進んだ。8日3時には硫黄島の西北西を時速25キロで北へ進み、8日9時には父島の西に達した。台風は9日1時には八丈島の西南西を時速25キロで北北西に進み、9日7時に愛知県豊橋市の南を北北西に進んだ後、9日10時過ぎ

に愛知県知多半島に上陸した。台風はその後、9日11時には愛知県名古屋市付近、13時には石川県小松市の南南東を北北西に進んだ後、日本海に進み、9日21時に台風は日本海中部で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、降り始めの7日13時から10日9時までの降水量は、西尾市一色町で219.5mm、田原市伊良湖で212.5mm、南知多町豊丘で210.5mmを観測した。風については、愛知県常滑市セントレアでは最大風速 17.8m/s、最大瞬間風速 28.8m/s、田原市伊良湖では最大風速 15.9m/s、最大瞬間風速 30.3m/s、名古屋市千種区では最大風速 14.3m/s、最大瞬間風速 30.1m/s を観測した。

28 平成28年9月19日～20日の台風第16号

台風第16号は、9月13日3時にフィリピンの東で発生し、20日0時過ぎに鹿児島県大隅半島に上陸し、西日本の南岸を東北東に進み、20日13時頃和歌山県田辺市付近に上陸した。その後、20日夜のはじめ頃に愛知県を東進し、20日21時に東海道沖で温帯低気圧に変わった。

愛知県では19日17時までの1時間に岡崎市木下町(愛知県雨量計)で103mmの雨を解析した。また、20日17時23分までの1時間に、蟹江町蟹江で61.0mmの雨を解析した。19日0時から20日24時までの48時間解析雨量積算では、西三河南部で300mmを超える雨量を解析した。

29 平成29年7月4日～5日の台風第3号

台風第3号は、7月2日9時に沖縄の南で発生し、発達しながら北西に進んだ。3日は東シナ海を北東へ進み、4日8時頃に長崎市付近に上陸した。この後九州を横断し、豊後水道を東へ進んだ後、4日12時過ぎに愛媛県宇和島市付近に上陸した。四国地方を横断した後、4日17時前に和歌山県田辺市に上陸し、4日夜は東海道沖を東に進んだ。その後、5日9時には日本の東で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、4日18時30分までの1時間に瀬戸市付近、豊田市西部付近で約70mmの雨を解析し、0時から24時までの解析雨量は150mmを超える雨量を解析した。

30 平成29年8月7日の台風第5号

台風第5号は7月21日9時に南鳥島近海で発生し西に進んだ。29日には父島の東を南西に進み、8月1日には日本の南で北西に向きを変え、6日には九州の南で北東に向きを変えて進み、7日10時頃に高知県室戸市付近を通過し、

7 日 15 時半頃に暴風域を伴ったまま和歌山県北部に上陸した。上陸後は近畿地方を北東に進み、7 日 19 時には三重県伊賀市付近を通過し、8 日 5 時には富山湾に達した。その後も北陸地方の沿岸を北東に進み、8 日 18 時に新潟県佐渡市付近に達した後、9 日 3 時には山形県沖で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、降り始めの 7 日 0 時から 8 日 24 時までの降水量は豊根村茶臼山で 224.5mm、豊田市阿蔵で 203.0mm を観測した。愛知県常滑市セントレアでは最大風速 22.7m/s、最大瞬間風速 28.3m/s を観測した。県内では突風により人的被害、住家の損壊などが発生した。

31 平成 29 年 9 月 17 日～18 日の台風第 18 号

台風第 18 号は、9 月 9 日 21 時にマリアナ諸島で発生し、11 日から 12 日にかけて強い勢力となりフィリピンの東から沖縄の南を北西に進んだ。16 日に進路を東寄りに変えて東シナ海を東北東に進み、17 日 11 時半頃、鹿児島県南九州市付近に上陸した。その後、暴風域を伴ったまま次第に速度を上げて九州南部及び四国地方を通過し、17 日 22 時頃に兵庫県明石市付近に上陸した後、近畿地方及び北陸地方を北東に進み、18 日北海道を北北東に進み、18 日 21 時にサハリン付近で温帯低気圧に変わった。

愛知県ではセントレアで最大風速 24.5m/s、最大瞬間風速は 32.4m/s、名古屋市中で最大風速 16.5m/s、最大瞬間風速 30.8m/s を観測した。

32 平成 29 年 10 月 22 日～23 日の台風第 21 号

10 月 16 日 03 時にカロリン諸島で発生した台風第 21 号は、発達しながらフィリピンの東海上を北上し、21 日には超大型で非常に強い勢力となり日本の南海上を北上した。22 日夜遅くには東海道沖を北北東に進んだ後、23 日 03 時頃に超大型で強い勢力で静岡県御前崎市付近に上陸した。その後、暴風域を伴ったまま静岡県及び関東地方を北東に進み、23 日 15 時に北海道の東で温帯低気圧に変わった。

愛知県では 22 日から 23 日にかけて、台風 21 号や前線の影響により広い範囲で大雨や強風となり、23 日は暴風となったところがあった。このため、人的被害や住家被害、河川の越水などの被害が発生した。

33 平成 30 年 7 月 28 日～29 日の台風第 12 号

7 月 25 日 03 時に日本の南で発生した台風第 12 号は、26 日 21 時には強い勢力となり発達しながら北上し、28 日は次第に進路を西よりに変え伊豆諸島付近

を北西に進んだ。台風は、暴風域を伴い強い勢力を維持したまま東海道沖を西へ進み、29 日 01 時頃に三重県伊勢市付近に上陸した。東海地方を西へ進んだ非常に珍しい台風となった。

愛知県では 28 日から 29 日にかけて非常に強い風が吹き、29 日は暴風となった所があった。このため、強風による人的被害が発生したほか、広域の停電や鉄道の運休などライフラインや交通機関に大きな影響があった。

34 平成 30 年 8 月 22 日～24 日の台風第 20 号

18 日 21 時にトラック諸島近海で発生した台風第 20 号は、小笠原諸島の南海上を発達しながら北西に進み、22 日 12 時に非常に強い勢力となり日本の南を北西に進んだ。23 日は、四国の南海上を北上し、強い勢力で暴風域を伴ったまま 23 日 21 時頃に徳島県南部に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま四国地方および近畿地方を北上し、24 日 02 時に日本海に抜けた後、24 日 15 時に秋田県沖で温帯低気圧に変わった。

三重県では 22 日夜遅くから雨が降り、24 日にかけて大雨となった。降り始めの 22 日 22 時から 24 日 20 時までの総雨量の多い所は、大台町宮川 448.5mm、尾鷲 311.0mm、御浜 262.0mm の雨を観測した。台風が三重県に接近した 24 日未明に、尾鷲の最大風速は 24 日 00 時 31 分に南南東の風 19.4m/s、最大瞬間風速は 24 日 00 時 30 分に南南東の風 36.3m/s を観測した。海上では台風の接近に伴って、波が高くうねりを伴い、23 日夜遅くには外海で 9m を超え猛烈なしけとなった。このため、人的被害があったほか、鉄道の運休や船舶の欠航、停電など、交通機関やライフラインに影響があった。

35 平成 30 年 9 月 4 日～5 日の台風第 21 号

8 月 28 日 09 時に南鳥島近海で発生した台風第 21 号は、マリアナ諸島を発達しながら西に進み、31 日 09 時に猛烈な勢力となった。その後は非常に強い勢力で日本の南海上を北上し、暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して 4 日 12 時頃に徳島県南部に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま北北東に進み、14 時頃に兵庫県神戸市付近に再上陸、15 時には若狭湾に達し、日本海沿岸を北上した後、5 日 09 時に間宮海峡で温帯低気圧に変わった。

愛知県では 4 日から 5 日にかけて猛烈な風が吹き、4 日には県内の広い範囲で暴風となり海上では猛烈なしけとなった。また、台風の北上に伴って流れ込んだ雨雲の影響により大雨となった所があった。このため、強風による人的被

害や建物の被害が発生したほか、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航、広域の停電など、交通障害やライフラインへの大きな影響があった。

36 平成 30 年 9 月 29 日～10 月 1 日の台風第 24 号

9 月 21 日 21 時にマリアナ諸島付近で発生した台風第 24 号は、フィリピンの東海上を発達しながら西北西に進み、25 日 00 時には猛烈な台風となった。30 日は次第に速度を速めながら四国の南海上を北東に進み、暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して、30 日 20 時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま更に速度を速めて東海、関東甲信、東北地方を北東に進み、10 月 1 日 12 時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、台風が強い勢力のまま愛知県西部を通過したため、豊橋で最大風速 27.1m/s を観測し、2005 年の統計開始以来 1 位の記録的な暴風となった。最大瞬間風速は 38.1m/s で 2008 年の統計開始以来 2 位であった。また、台風本体の雨雲がかかった 30 日夜を中心に東三河北部では一時的に猛烈な雨が降った所があった。このため、強風による人的被害や建物等の被害が発生したほか、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航、広域および長時間にわたる停電など、交通障害やライフラインへの大きな影響があった。

37 令和元年 8 月 14 日～16 日の台風第 10 号

8 月 6 日 15 時にマリアナ諸島で発生した台風第 10 号は北西に進み、14 日 03 時には四国の南に進んだ後、進路を北に変え 15 日は豊後水道を北上した。11 時過ぎに愛媛県佐田岬半島付近を、東側 330 km 西側 60 km と東側に偏った暴風域を伴って通過、15 時ごろに暴風域が消滅した状態で広島県呉市付近に上陸した。上陸後台風は中国地方を縦断し 15 日夜には日本海に進み、北上しながら進路を次第に北東に変えて 16 日 21 時に北海道の西で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、15 日朝から風が強まり始め、台風の進む速度が遅かったため強風は 16 日朝まで続いた。このため、強風による人的被害や建物等の被害が発生したほか、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航などの影響があった。

38 令和元年 9 月 8 日～9 日の台風第 15 号

9 月 5 日 15 時に南鳥島近海で発生した台風第 15 号は、小笠原近海を北西に進み、8 日には向きを北よりに変え伊豆諸島北部を北北東に進んだ。9 日 03 時前に非常に強い勢力で三浦半島付近を通過、9 日 05 時前に強い勢力で千葉市付近に上陸後、関東地方を北東に進んだ。

静岡県では、8日夜遅くから9日未明にかけて暴風となり、非常に強い風を観測した所があった。また、8日朝から断続的に雨となり、台風が接近した8日夜から9日未明にかけては伊豆地方を中心に猛烈な雨となり、降り始めからの総降水量は天城山で440.5ミリとなった。海上では、8日から9日にかけて波やうねりが高くなり、石廊崎では4メートルを超えるしけとなった。

このため、人的被害や建物等の被害が発生したほか、道路の通行止め、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航、断水・停電などライフラインへの影響があった。

39 令和元年10月11日～13日の令和元年東日本台風（台風第19号）

10月6日3時に南鳥島近海で発生した台風第19号は、マリアナ諸島を西に進みながら、7日18時に大型で猛烈な台風となった。台風はその後小笠原近海を北北西に進み、12日には北寄りに進路を変え伊豆諸島北部を北北東に進んだ。12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13日に三陸沖に抜けた。

愛知県では12日を中心に強風となり外海では大しけとなった。また、台風周辺の活発な雨雲の影響により大雨となった所があった。このため、強風による人的被害が発生したほか、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航などの影響があった。

40 令和2年9月6日～7日の台風第10号

9月1日21時に小笠原近海で発生した台風第10号は、5日11時には大型で非常に強い勢力となり、7日は九州の西海上から日本海西部を北に進み、8日3時には中国東北区で温帯低気圧に変わった。愛知県には台風本体の雨雲はかからなかったものの、台風東側の暖かく湿った空気と高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気が合流して流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。このため、6日から7日にかけて所々で雨となり、特に7日昼前から夕方にかけては、雷を伴い非常に激しい雨が降って大雨となった所があった。また、外海ではうねりを伴って大しけとなった。名古屋市で床上浸水などの被害が発生した。

41 令和4年9月18日～19日の台風第14号

9月14日03時に小笠原近海で発生した台風第14号は、日本の南を発達しながら北西に進み、18日19時頃に大型で非常に強い勢力で鹿児島市付近に上陸した。台風は九州を北上して19日朝には日本海に進み、19日16時半頃に島根県出雲市付近に再上陸した。その後、山陰沖を進んで20日04時過ぎに新

潟市付近に上陸し、東北地方を進んで 20 日 09 時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、9 月 18 日夜から 19 日朝にかけて台風周辺の暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。このため、愛知県の尾張西部で、道路冠水などの被害が発生した。

42 令和 4 年 9 月 23 日～24 日の台風第 15 号

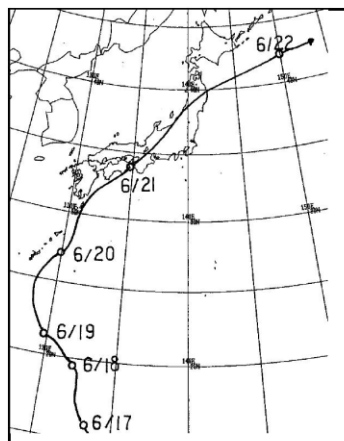
9 月 22 日 09 時に日本の南の海上で発生した台風第 15 号は、その後北上した後、23 日 21 時に紀伊半島の南で熱帯低気圧に変わった。

愛知県では、台風周辺の暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が非常に不安定となった。23 日夕方から夜遅くにかけては線状降水帯が発生し、特に東三河南部では猛烈な雨が降り、降り始め（22 日 5 時）からの総雨量が多い所で 300 ミリを超える大雨となった所があった。このため、愛知県西三河南部や東三河南部を中心に、住家被害や道路損壊などの被害が発生した。

(注) 平成 4 年 12 月 1 日、気象庁は台風情報等に用いる気圧の単位を hpa（ヘクトパスカル）に変更した。1 mb＝1 hpa であることから、従前の mb（ミリバール）との換算は必要なく、単位を読み替えることのみで、旧来の資料等は使用することができる。

資料：愛知県地域防災計画附属資料（令和 5 年修正）

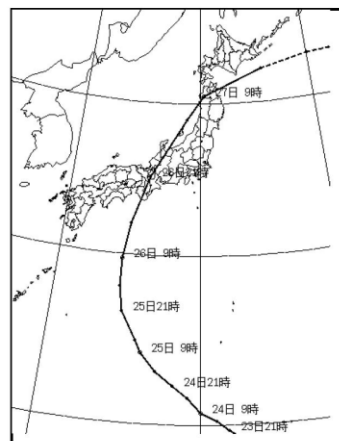
東海地方に影響のあった主な台風（進路図）



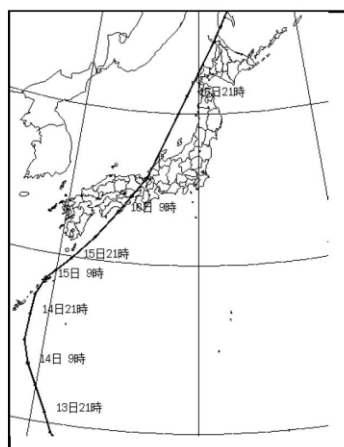
昭和9年9月の室戸台風
(○印は06時の位置)



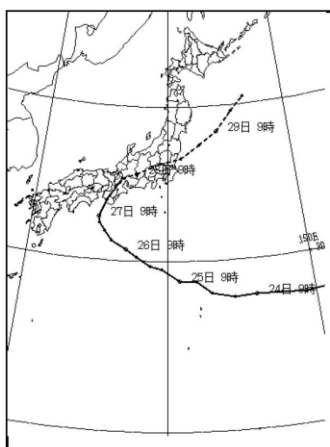
昭和28年9月の台風第13号



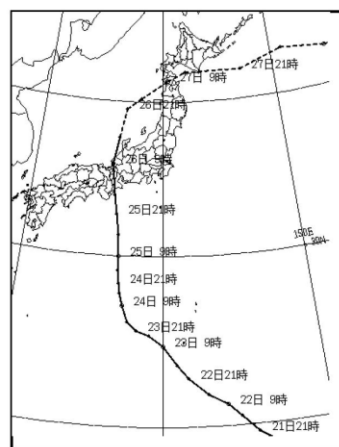
昭和34年9月の伊勢湾台風



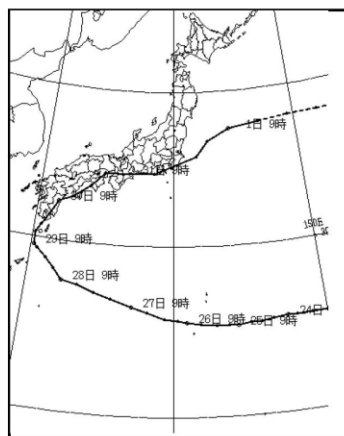
昭和36年9月の第2室戸台風



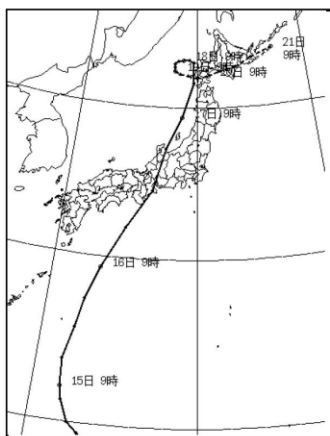
昭和37年7月の台風第7号



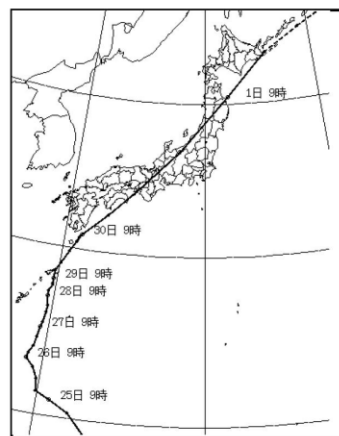
昭和37年8月の台風第14号



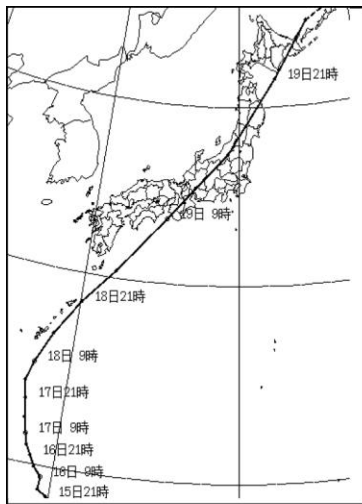
昭和46年8月の台風23号



昭和47年9月の台風第20号



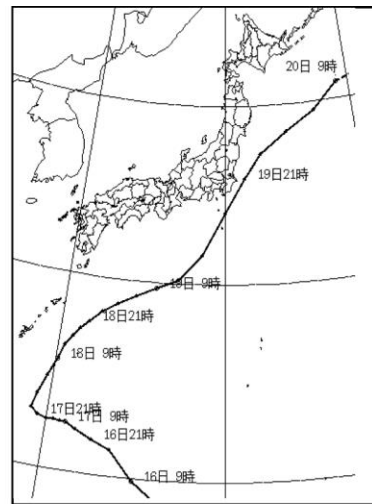
昭和54年9月の台風第16号



昭和54年10月の台風第20号



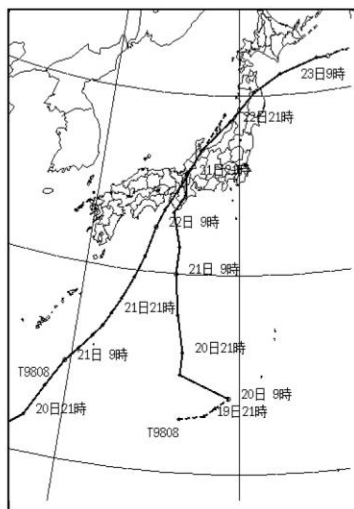
平成2年9月の台風第19号



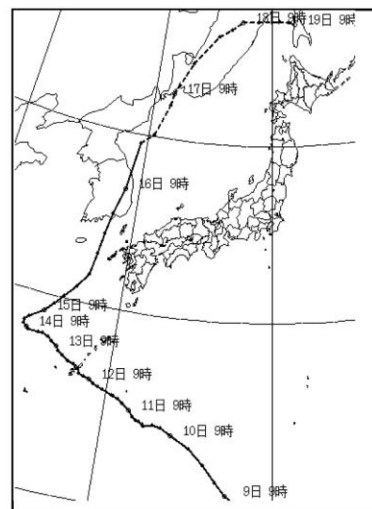
平成3年9月の台風第18号



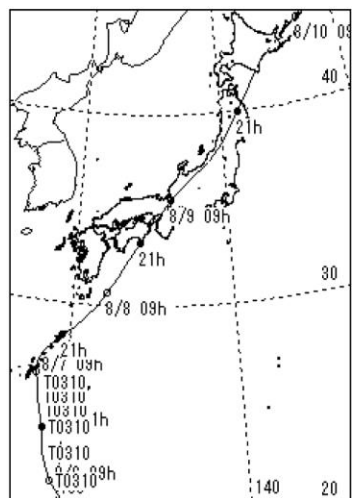
平成6年9月の台風第26号



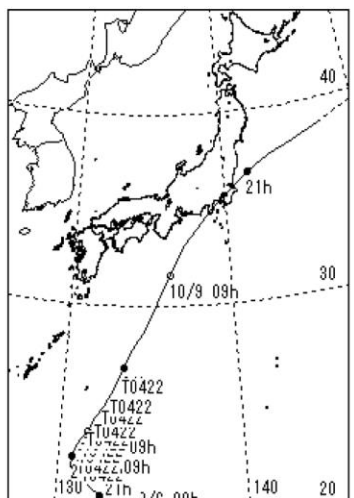
平成10年9月の台風第7・8号



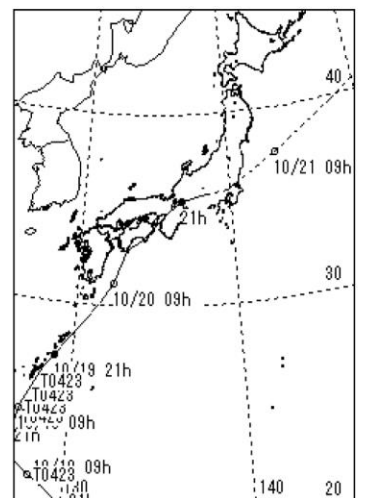
平成12年9月の台風第14号



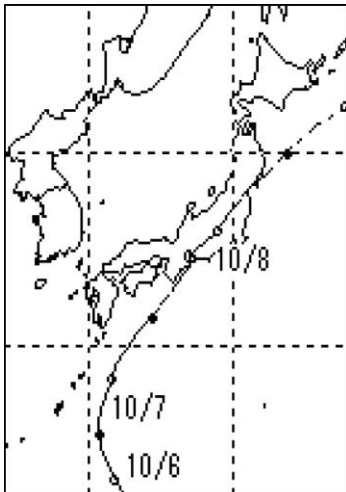
平成15年8月の台風第10号



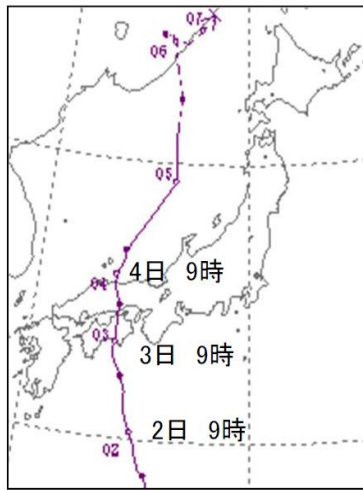
平成16年10月の台風第22号



平成16年10月の台風第23号



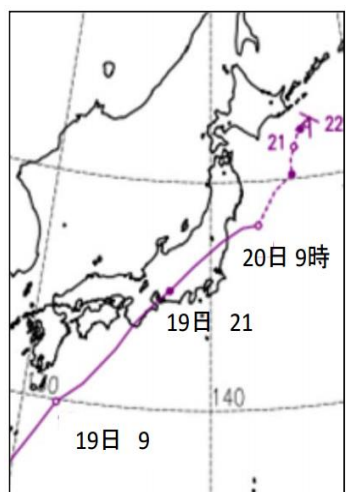
平成21年10月の台風第18号



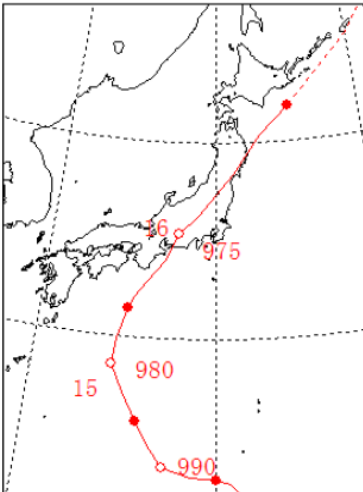
平成23年9月の台風第12号



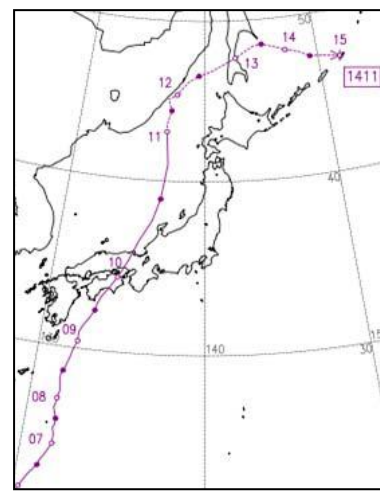
平成23年9月の台風第15号



平成24年6月の台風第4号



平成25年9月の台風第18号



平成 26 年 8 月の台風第 11 号



平成26年10月の台風第18号



平成26年10月の台風第19号



平成27年の9月の台風第18号



平成28年9月の台風第16号



平成29年7月の台風第3号



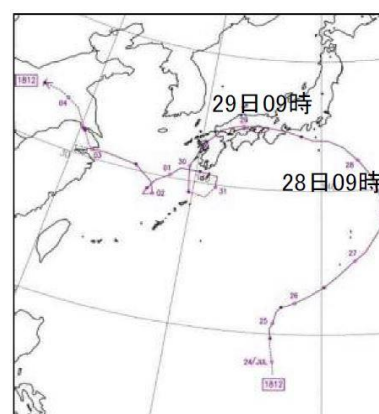
平成29年8月の台風第5号



平成29年8月の台風第18号



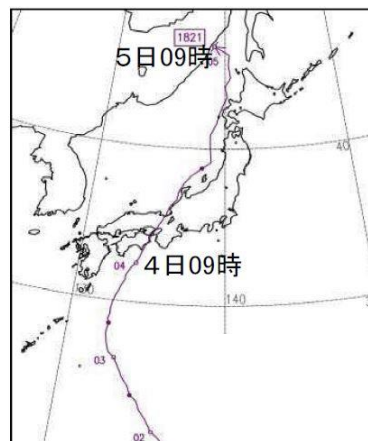
平成29年10月の台風第21号



平成30年7月の台風第12号



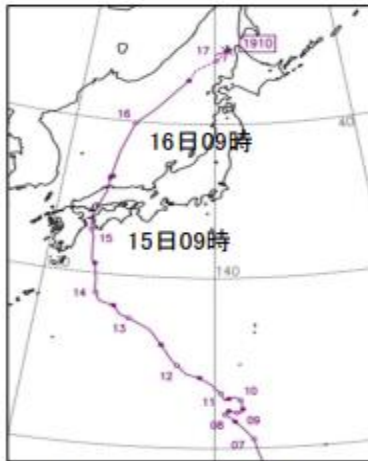
平成30年8月の台風第20号



平成30年9月の台風第21号



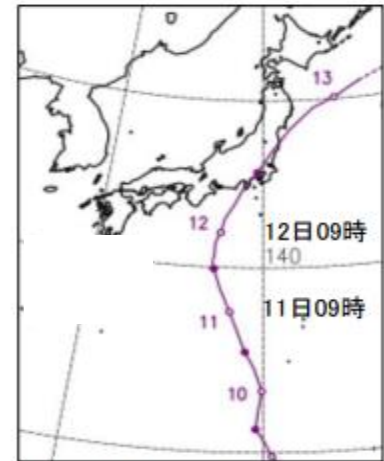
平成30年9月の台風第24号



令和元年8月の台風第10号



令和元年9月の令和元年房総半島台風(台風第15号)



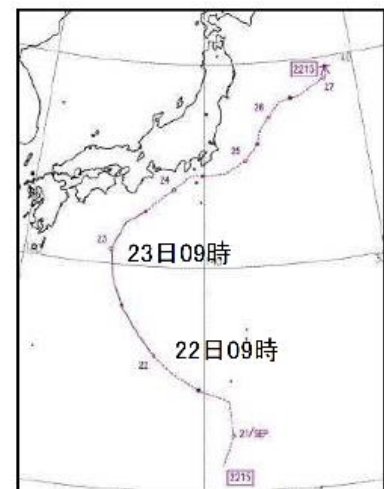
令和元年10月の令和元年東日本台風(台風第19号)



令和2年9月の台風第10号



令和4年9月の台風第14号



令和4年9月の台風第15号

資料：愛知県地域防災計画附属資料（令和5年修正）

資料6 台風の大きさと強さの分類

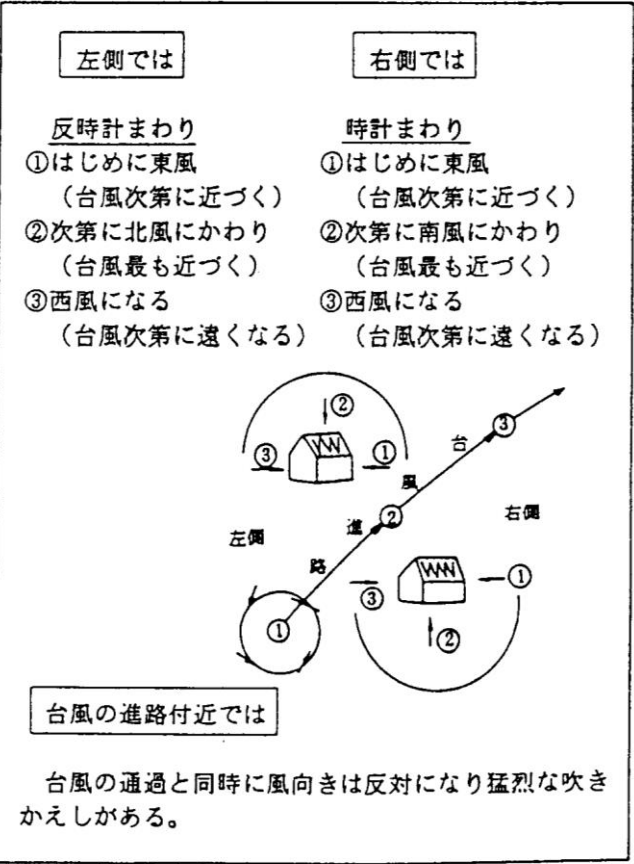
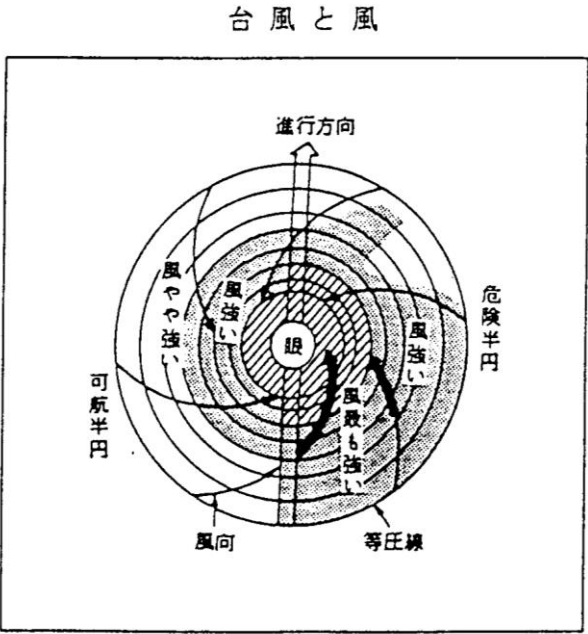
大きさと階級分け

階 級	風速 15m/s 以上の半径
<表現なし>	500km 未満
大 型 (大 き い)	500km 以上 ～ 800km 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上

強さの階級分け

階 級	最大風速
<表現なし>	17m/s (34 ノット) 以上 ～ 33m/s (64 ノット) 未満
強 い	33m/s (64 ノット) 以上 ～ 44m/s (85 ノット) 未満
非常に強い	44m/s (85 ノット) 以上 ～ 54m/s (105 ノット) 未満
猛 烈 な	54m/s (105 ノット) 以上

台風の進路によって、風向きの変わり方も異なる。



資料7 水こう門

位置	名称	管理責任者	巡視責任者	排水樋門			構 造
				高さ (m)	幅 (m)	数	
御幸町 (庄内川)	排水樋門	国土交通省	上下水道部長	1.6	2.2	1	鋼製手動式 スルゲート
松河戸町 (庄内川)		国土交通省 春日井市	建設部長	1.0	1.0	2	手動巻上
中切町 (庄内川)		春日井市		1.7	1.3	1	鋼製自動巻上式 スルゲート
神領町 (庄内川)				1.6	2.1	1	鋼製手動巻上式 スルゲート
熊野町北 (庄内川)				3.2	1.5	1	鋼製電動式 スルゲート
熊野町 (内津川)				3.2	1.5	1	
桜佐町 (内津川)				1.47	1.55	1	
勝川町 (地藏川)	転倒堰	愛知県	1.25	1.35	1	木製手動式	
林島町 (地藏川)	排水樋門		1.35	1.60	1	フオートゲートスライトゲート 手動巻上併設	
桜佐町 (庄内川)	排水樋門	上条用水 土地改良区	産業部長	1.84	1.5	1	鋼製電動式 スライトゲート
熊野町 (庄内川)	取水樋門			1.52	2.0	1	電動式スルゲート
大留町 (庄内川)		高貝用水 土地改良区		1.2	1.2	1	手動巻上
上条町 (庄内川)		上条用水 土地改良区		1.0	1.6	1	
大手町 (新木津用水)	排水樋門	木津用水 土地改良区		1.5	7.7	1	鋼製電動式 スルゲート
朝宮町 (新木津用水)				1.5	4.15	1	
桜佐町 (内津川)		上条用水 土地改良区	1.5	1.5	1	鋼製電動式 ローゲート	
		春日井市	上下水道部長	2.5	3.5	1	ステンレス製 ローゲート

資料8 移動用排水ポンプ

区 分	ポンプ内径 (mm)		発 電 機 (台(kw))
	100 未満	100～200	
建 設 部	3	14	4 (1. 5)
上下水道部		13	
市民安全課		2	
計	3	29	4 (1. 5)

資料9 災害対策本部組織体制・事務分掌

- 1 ◎印は責任者、○は副責任者とする。
- 2 初動態勢の配備要員は、部長及び各課管理職1名とする。ただし、別に配備要員を定めた課においては、そのとおりとする。
- 3 第一次非常配備態勢の配備要員は、部長及び総括担当者（主幹を含む）の全員並びに担当課の補佐職及び主査職の半数とする。ただし、別に配備要員を定めた課においては、そのとおりとする。
- 4 第二次非常配備態勢の配備要員は、部長及び総括担当者（主幹を含む）の全員並びに担当課の補佐職以下職員の半数とする。ただし、別に配備要員を定めた課においては、そのとおりとする。

部長 総括担当者	担当課	主な事務分掌
本部事務局部 部 長 ◎総務部長 ○企画経営部長 ○総務部参事 総括担当者 「本部班」 ◎市民安全課長 「受援総括班」 ◎総務課長 ○財政課長 「動員班」 ◎人事課長 「本部長付」 ◎秘書課長	「本部班」 市民安全課	1 災害対策本部の設置、廃止及び庶務に関する事 と。 2 部長会議の開催に関する事。 3 被害状況の集約に関する事。 4 被害状況の関係機関への伝達に関する事。 5 避難情報の検討、発令に関する事。 6 自衛隊の派遣要請及び広域応援要請に関する 事。 7 国・県・関係機関等との連絡調整に関する事。 8 災害応急対策全般の調整に関する事。 9 安否不明者・行方不明者の公表に関する事。 10 各部との連絡調整及び活動状況の集約に関する 事。 11 災害復興計画の企画立案に関する事。（受援総 括班、技術部と協働する。）
	「受援総括班」 総務課 財政課	1 受援に係る総合調整に関する事。 2 行政無線、電話等の通信の統制、確保、運用に関 する事。 3 車両の確保に関する事。 4 緊急通行車両の確認申請に関する事。 5 庁内放送による被害情報等の伝達に関する事。 6 車両の管理、配分に関する事。 7 庁舎駐車場の確保、エレベーターの稼働指示に関 する事。 8 庁舎への避難者の対応に関する事。 9 庁舎施設の被害調査、災害復旧に関する事。 10 災害復興計画の企画立案に関する事。 11 災害応急対策、復旧対策に係る財政措置に関する 事。

部長 総括担当者	担当課	主な事務分掌
		12 受援に係る費用の清算、弁償に関すること。 13 災害救助費関係資料の作成及び費用請求に関すること。
	「動員班」 人事課	1 職員の動員配置及び各部の配置調整に関すること。 2 応急復旧の進捗状況に合わせた組織、動員体制の検討、応援配備に関すること。 3 消防補助員土のう班、本部補助班の招集、活動割振に関すること。 4 指定福祉避難所運営班の招集、活動割振に関すること。 5 参集職員の把握に関すること。 6 職員の被災状況に関すること。 7 職員の給食及び衛生管理に関すること。 8 人的応援の要請に関すること。 9 各種応援受入状況の集約に関すること。 10 その他職員の動員に関すること。
	「本部長付」 秘書課	1 見舞い者等への応接に関すること。 2 記者会見に関すること。(報道班と協働する。)
情報管理部 部長 ◎企画経営部長 ○DX 推進部長 ○議会事務局長 ○監査事務局長 総括担当者 「報道班」 ◎広報広聴課長 「広報伝達班」 ◎企画政策課長 ○監査課長 議事課長 「収集整理班」 ◎情報システム課長 ○デジタル推進課長	「報道班」 広報広聴課	1 報道機関への対応、連絡調整及び災害広報に関すること。 2 記者会見に関すること。(本部長付と協働する。) 3 災害情報の発信に関すること。(市ホームページ・市公式ライン、緊急情報X(旧ツイッター)、春日井駅デジタルサイネージ) 4 災害に関する写真、映像等による記録に関すること。(広報伝達班と協働する。)
	「広報伝達班」 企画政策課 監査課 議事課	1 避難情報の広報に関すること。 2 災害情報の伝達に関すること。(音声架電システム、広報車等) 3 災害に関する写真、映像等による記録に関すること。 4 その他広報に関すること。
	「収集整理班」 情報システム課	1 気象情報、被害情報の収集整理に関すること。 2 市内雨量、河川水位等の把握、記録に関すること。 3 市内避難情報、避難所開設状況の把握、記録に関

部長 総括担当者	担当課	主な事務分掌
	デジタル推進課	すること。 4 開設避難所の避難者数、必要物資等の情報収集、記録に関すること。 5 本部事務局部、情報管理部報道班、広報伝達班、市民窓口部窓口班での情報の共有に関すること。 6 市民窓口部窓口班への情報開示に関すること。 7 災害通報・処理票（第 14 号様式）のデータの作成・管理、情報処理に関すること。 8 浸水被害調査に関すること。 9 その他情報の収集整理に関すること。
市民窓口部 部長 ◎市民生活部長 ○総務部長 ○こども未来部長 ○総務部参事 総括担当者 「窓口班」 ◎戸籍住民課長 ○契約管理課長 子育て推進課長 「罹災証明班」 ◎資産税課長 ○収納課長 市民税課長 「ボランティア班」 ◎市民生活課長 「多様性支援班」 ◎多様性社会推進課長	「窓口班」 戸籍住民課 契約管理課 子育て推進課	1 被災者からの問い合わせ、相談、要望等に対する応答に関すること。（市民窓口部ボランティア班、会計部、消防補助員の応援を受け活動する。） 2 電話等による被害通報の受付（災害通報・処理票（第 14 号様式）の作成）及び通報の整理、情報管理部への伝達に関すること。 3 遺体の収容及び埋火葬に関すること。 4 葬儀業者への協力要請、調整に関すること。 5 その他市民との対応に関すること。
	「罹災証明班」 資産税課 収納課 市民税課	1 罹災証明書に関すること。 2 住家被害認定調査に関すること。
	「ボランティア班」 市民生活課	1 春日井市社会福祉協議会との委託契約の締結に関すること。 2 NPO・ボランティア関係団体及びボランティア等との連絡調整に関すること。 3 災害救援ボランティアコーディネーターとの連絡調整に関すること。 4 海外からの応援協力等に対する連絡調整に関すること。 5 電話による被害通報の受付に関すること。（市民窓口部窓口班の応援） 6 総合相談窓口の設置に関すること。
	「多様性支援班」	1 被災外国人に対する情報提供及び相談に関すること。

部長 総括担当者	担当課	主な事務分掌
	多様性社会推進課	2 多様性や男女共同参画の視点による避難所運営に対する助言に関すること。
技 術 部 部 長 ◎建設部長 ○上下水道部長 ○まちづくり推進部長 ○建設部次長兼まちづくり推進部次長 総括担当者 ◎河川排水課長 ○道路課長 公園緑地課長 施設管理課長 上下水道経営課長 上下水道業務課長 水道工務課長 下水建設課長 都市政策課長 都市整備課長 ニュータウン創生課長 建築指導課長 住宅政策課長 土木管理課長	河川排水課 道路課 公園緑地課 施設管理課 上下水道経営課 上下水道業務課 水道工務課 下水建設課 都市政策課 都市整備課 ニュータウン創生課 建築指導課 住宅政策課 土木管理課	(共通事項) 1 所管工事現場の災害防止に関すること。 2 その他土木建築の技術面に関すること。 (水防に関すること) 1 水防に関すること。 2 ポンプの維持、操作、樋門等の開閉操作及び指揮、スクリーンの巡視に関すること。 3 農業用施設の確認巡視及び応急対策に関すること。 4 水路の清掃に関すること。 (調査に関すること) 1 調査先等での避難の指示及び誘導に関すること。 2 調査先等での人命捜索及び救出救助に関すること。 3 危険箇所等の確認巡視及び災害応急対策に関すること。 4 被害家屋の調査及び資料の整理に関すること。 5 調査先等での自衛隊、広域応援の受入れ及び連絡調整に関すること。 6 宅地相談、その他二次災害の防止に関すること。 7 道路地下道の交通整理に関すること。 8 ため池の確認巡視及び応急対策に関すること (復旧に関すること) 1 土木建築業者との連絡調整に関すること。 2 公共土木施設等の被害調査及び災害復旧に関すること。 3 道路障害物の除去及び道路啓開に関すること。 4 倒壊家屋対策、瓦礫等の処理に関すること。 5 仮設住宅の設置及び応急修理家屋の決定に関すること。 6 被災住宅の応急修理に関すること。 7 応急仮設住宅に関すること。 (給水に関すること) 1 送配水の応急措置に関すること。 2 水道施設の被害調査及び応急復旧に関すること。 3 被災地の応急給水に関すること。 4 緊急送配水工事に關すること。

部長 総括担当者	担当課	主な事務分掌
		5 水道関係機関、団体との連絡及び調整に関する こと。 6 応急復旧用資機材の調達及び会計に関する こと。 7 広域給水応援の受入れ及び調整に関する こと。 8 その他給水に関する こと。
消防公安部 部 長 ◎消防長 ○副消防長 ○消防署長 総括担当者 ◎消防救急課長 ○消防総務課長 予防課長 通信指令課長 副署長 東出張所長 西出張所長 南出張所長 北出張所長 高蔵寺出張所長	消防救急課 消防総務課 予防課 通信指令課 消防署 東出張所 西出張所 南出張所 北出張所 高蔵寺出張所	1 消火、救出、救助、救急に関する こと。 2 避難の指示及び誘導に関する こと。 3 災害情報、気象情報等の収集及び連絡に 関する こと。 4 被害状況の把握及び記録集計に 関する こと。 5 消防活動状況の把握及び記録に 関する こと。 6 水防に関する こと。 7 関係機関との連絡調整に 関する こと。 8 広域消防応援の要請、受入れ及び調整に 関する こと。 9 消防団との連携に関する こと。 10 自主防災組織に関する こと。 11 消防補助員の指揮、監督に 関する こと。 12 その他消防に関する こと。
避 難 部 部 長 ◎教育部長 ○いきがい創生部 長 総括担当者 ◎教育総務課長 ○学校教育課長 学校給食課長 いきがい推進課 長	教育総務課 学校教育課 学校給食課 いきがい推進課	1 避難所業務に係る指定一般避難所配備職員派遣 招集及び活動割振に関する こと。 2 指定一般避難所及び指定福祉避難所の業務管理 に関する こと。(本部事務局部動員班、救護福祉部、 施設設備と協働する。) 3 児童、生徒の安全対策に関する こと。 4 被害状況に応じた避難所内の安全確保に 関する こと。 5 開設避難所における避難者数、必要物資等の把握 に関する こと。 6 教育施設等の被害調査及び復旧に関する こと。 7 応急教育の実施に関する こと。 8 学用品等の給与に関する こと。 9 社会教育施設の応急対策に関する こと。 10 その他避難所及び文教対策に関する こと。
救護福祉部	「救護班」 健康増進課	1 救護所の開設、診療、助産に関する こと。 2 指定一般避難所及び指定福祉避難所への職員(保

部長 総括担当者	担当課	主な事務分掌
部 長 ◎健康福祉部長 ○こども未来部長 ○市民生活部長 総括担当者 「救護班」 ◎健康増進課長 ○子ども家庭支援課長 保険医療年金課長 保育課長 「要配慮者班」 ◎福祉政策課長 ○地域共生推進課長 介護・高齢福祉課長 障がい福祉課長 生活支援課長	こども家庭支援課 保険医療年金課 保育課 「要配慮者班」 福祉政策課 地域共生推進課 介護・高齢福祉課 障がい福祉課 生活支援課	健師、看護師等）の派遣に関すること。（避難部と協働する。） 3 指定福祉避難所業務に関すること。（避難部、施設設備と協働） 4 医師会等医療関係機関との連絡及び調整に関すること。 5 医薬品、医療材料の調達及び供給に関すること。 6 医療ボランティアの受入れ及び調整に関すること。 7 被災者の保健医療及び保健相談に関すること。 8 伝染病の予防（防疫対策を除く。）に関すること。 9 保育園児の安全対策に関すること。 10 保育施設等の被害調査及び復旧に関すること。 11 福祉施設の被害調査及び応急復旧に関すること。 12 要配慮者班の行う要配慮者対策の支援に関すること。 13 その他保健医療に関すること。 1 要配慮者の避難支援に関すること。（区・町内会・自治会長への電話連絡等は、情報管理部広報伝達班と協働する。） 2 指定一般避難所及び指定福祉避難所への職員（保健師、看護師等）の派遣に関すること。（避難部と協働する。） 3 指定福祉避難所業務に関すること。（避難部、施設設備と協働） 4 その他要配慮者対策に関すること。 5 福祉施設の被害調査及び応急復旧に関すること。 6 義援金の募集及び配分に関すること。 7 災害弔慰金等に関すること。 8 被災者生活再建支援金に関すること 9 福祉関係団体との連絡調整に関すること。 10 その他被災者の福祉に関すること。
物資供給部 部 長 ◎産業部長 ○いきがい創生部長 総括担当者	企業活動支援課 経済振興課 農政課 文化スポーツ振興課	1 物的応援の要請に関すること。 2 避難部との情報共有に関すること。 3 食糧及び生活必需品の調達、確保及び管理に関すること。 4 食糧及び生活必需品の受入れ、仕分け、搬送及び供給に関すること。 5 物資集配拠点に関すること。 6 炊き出しに関すること。

部長 総括担当者	担当課	主な事務分掌
◎企業活動支援課長 ○経済振興課長 農政課長 文化スポーツ振興課長		7 その他物資の調達、供給に関すること。 8 農業用水（新木津（高山制水門及び兵田堰以外）、上条、高貝、愛知用水）の確認巡視及び応急対策に関すること。
衛 生 部 部 長 ◎環境部長 ○市民生活部長 総括担当者 ◎ごみ減量推進課長 ○環境政策課長 環境保全課長	ごみ減量推進課 環境政策課 環境保全課	1 ごみ、し尿の収集及び処理に関すること。 2 処理施設の被害調査及び応急復旧に関すること。 3 仮設トイレの調達、設置、管理に関すること。 4 防疫等衛生に関すること。 5 ごみ等の収集・処理業者への協力要請、調整に関すること。 6 広域応援の受入れ、調整に関すること。 7 食糧及び生活必需品の受入れ、仕分け、搬送及び供給に関すること。（物資供給部の応援） 8 技術部の活動応援に関すること。（第1次非常配備態勢以上）
会 計 部 部 長 ◎会計管理者 総括担当者 ◎会計課長	会計課	1 義援金、見舞金の出納に関すること。 2 災害応急関係費の支払いに関すること。 3 その他経費の支払いに関すること。 4 電話による被害通報の受付に関すること。（市民窓口部の応援）
消防補助員		1 指定一般避難所運営業務に関すること。（施設管理者、避難部、救護福祉部と連携） 2 避難部への指定一般避難所業務状況の報告に関すること。 3 指定一般避難所防災資器材の点検確認に関すること。 4 土のう搬送・作成に関すること。 5 技術部の活動に関すること。 6 情報管理部広報伝達班、市民窓口部、技術部の活動応援に関すること。 7 その他防災活動全般に関すること。

部長 総括担当者	担当課	主な事務分掌
指定福祉避難所運営班		1 指定福祉避難所運營業務に関すること。(施設職員、避難部、救護福祉部と連携) 2 避難部への指定福祉避難所業務状況の報告に関すること。 3 その他防災活動全般に関すること。
施設配備	指定一般避難所	1 施設・設備の点検、被害状況の確認に関すること。 2 施設・設備被害の応急措置及び復旧活動に関すること。 3 指定一般避難所業務に関すること。(消防補助員、避難部、救護福祉部と連携) 4 防災資器材の点検確認に関すること。 5 主管課への被害状況報告(公共施設・ライフライン等被害報告書(第11号様式)の作成)に関すること。
	指定福祉避難所	1 施設・設備の点検、被害状況の確認に関すること。 2 防災資器材の点検確認に関すること。 3 指定福祉避難所業務に関すること。(避難部、救護福祉部と協働する。) 4 避難部への指定福祉避難所業務状況の報告に関すること。 5 施設・設備被害の応急措置及び復旧活動に関すること。 6 主管課への被害状況報告(公共施設・ライフライン等被害報告書(第11号様式)の作成)に関すること。
	その他施設	1 施設・設備の点検、被害状況の確認に関すること。 2 施設・設備被害の応急措置及び復旧活動に関すること。 3 主管課への被害状況報告(公共施設・ライフライン等被害報告書(第11号様式)の作成)に関すること。 4 追認避難所となった場合の避難所業務に関すること。